



※レジリエンス認証制度
事業継続力を高めることに積極的に取り組んでいる企業を認証し、社会全体のレジリエンスの向上を目指す認証制度



ポケットサイズにして携帯できるBCPの小冊子。従業員みんなで話し合って作成。連絡先や在宅時に被災した場合の対応などが書かれている
●日本精工株式会社



2018年の台風21号では暴風によって屋上の室外機が何台も倒れてしまい、建屋の窓ガラスが割れるなど、これまでにない被害を受けた
●日本精工株式会社



工場の作業をいったん止めて、パートも含めた従業員全員でおこなわれた、2019年11月の訓練
●日本精工株式会社

の策定から始めました。その成果のひとつが当社のBCPの小冊子です。A4で約50枚の内容を要約したポケットサイズで、社員全員に配りました。

三木 もう「レジリエンス認証※」は取られたのですか？

平井 認証はまだですが、専門家に来ていただいて、資料の作成を手伝っていただきました。

三木 うちも専門家に手伝っていただき、取得に向けて取り組み中です。

西村 おふたりとも行動がスピーディーですね。当社のBCPへの取組みは経営革新計画の承認取得をめざし、大阪府よろず支援拠点へ相談に行ったのがはじまりです。そこで計画の承認には「オリジナリティが求められる」とアドバイスされました。改めて自社の独自性について考えたところ、「大阪と島根、2つの拠点があること」だと思に至りました。現在、大阪は営業、島根は製造の拠点としています。どちらかが被災した場合でも、継続的に動きが取れることこそ、当社のウリだと思ったんです。

平井 それは強みになる。

西村 はい、これをより強くアピールするためにも、BCPを固めていこうと考えたのがきっかけです。地理的には往復で約10時間かかり、製造やコミュニケーションの観点から見れば2拠点体制はデメリットもありますが、BCPにおいてはそれを強みに変えることができるのではと考えています。



三木 取り組みはどの程度まで進んでいますか？

西村 中小企業庁のサイトにテンプレートがあったので、それをもとに自社のオリジナリティを盛り込んだ書類を作成しているところです。まだ我流で進めているので、ある程度まとまったら専門家に相談するつもりです。

実際の訓練や状況を考えることで いろんな気づきが生まれる。

三木 BCPの策定に取り組むにあたって、ネックだったのが費用でした。そこで大阪府商工会連合会に相談したら、費用を抑える方法を教えていただいて。

西村 中小企業にとってはありがたいですね。具体的にはどのような方法で、進めるのですか。

三木 私は大阪府商工会連合会が実施する、BCP策定の支援制度を活用しています。レジリエンス認証の取得をめざすもので、専門家の方と相談しながら書類を作成したり、実際に2回ほど避難訓練をします。ちょうど昨日書類を提出したところです。4月頃に東京で面接を受けてそれでOKが出れば、認証が取れると聞いています。

平井 私も商工会連合会の制度を活用しました。「BCPとは何か」というところから丁寧にやっていただけますよ。知らないことが多くて、教えてもらいながら進めましたから。

三木 従業員も全員参加でおこなうので、全体の意識も高まります。

西村 うちの場合は私や工場長といった管理層だけで、「こういう時はどう行動するか」というたき台をつくっている段階で、従業員に対してはこれから巻き込んでいくつもりです。

平井 今日は訓練についてお聞きしたくて。2019年はじめて実施した内容は避難訓練と、被害状況を点検してのレポート作成、発電機の運転練習や消火器の練習、非常用持ち出し品のチェックです。終了後、従業員全員にアンケートを取ったところ、意外に関心が高くて驚きました。「訓練は年2回では少ない」という声もあったほど。そこで次回は何をしようか思案していて、ほかの会社がどんな訓練をしているのか教えてもらえれば。

三木 うちも同じような訓練を1回やって、2回目は机上訓練を

実施しました。これは地震を想定した模擬訓練で、専門家の方が提示する状況に対して、グループに分かれて対策を発表します。たとえば「通勤途中で地震に遭ったらどうするか?」という問いかけに対しても、住んでいる場所も価値観も違うのでいろんな意見が飛び交います。その場にいるような気持ちになって真剣に考えることで、知識として定着すると思うんですね。

西村 状況に当てはめて自分で対策を考えたり、ほかの人の対応を聞くことでいろんな気づきがありそうですね。

三木 たとえば先の通勤途中での地震に対しては、「安否確認が大切」という意見が多く出たので、今はLINEグループを活用しています。以前、LINEが役立つことがあったので。実は大阪北部地震の時、私は東京出張で浜松あたりで新幹線が止まりカンヅメになったんです。すると会社からのLINEで「みんな無事です」というメッセージが送られてきて、ほっとした記憶があります。飛んで帰りたいと思っても、新幹線は止まっていますし(笑)。そんな時コミュニケーションがすぐ取れると安心できますよね。

西村 これまでを振り返っても実際の被災地では、携帯の電波が切れることが多いじゃないですか。そういった場合の対応は考えられていますか。

三木 被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始されるNTTの伝言ダイヤル(171)を使うようにしています。

平井 安否を音声情報として録音・再生できるんですね。

三木 それを毎月1日と15日にテストとして使えます。

平井 うちでは以前から、震度5弱で自動的に安否確認ができるシステムを導入していました。

西村 どうやって確認するんですか？

平井 携帯電話に一斉メールが送られて、安否を返信するというものです。

三木 ほかに「就業時間内に地震が起きた時」は、工場の中に残るか近くの小学校へ避難すべきかの議論もしました。「ここは新築で、小学校のほうが建物が古いから残った方が安全」という意見が出たり(笑)。またその場合、「工場には備蓄がないから、1泊か2泊できる程度のキャンプ用品の用意や食料の備蓄をしよう」という意見が出たので、早速準備しました。

西村 水に関しては会社にウォーターサーバーがあるので、何日かは大丈夫ですが、それ以外の備蓄の用意はできていないですね。

三木 キャンプ用品のフリーズドライ食品は賞味期限も長いですし、美味しいからおすすめですよ。

地震・津波・火災に対する備え、 データの保守までやるべきことは山ほどある。

西村 BCPで想定されている災害は地震だけですか。

三木 地震とそれに伴う津波です。3mの津波だと、うちの工場は水没すると言われているので、2mまでは食い止めよう。つまり工場内に水が入ってこないような仕組みを構築しようとしています。

西村 具体的には何をされているんですか？

三木 たとえばシャッターのところに重石を置き、防水シートを敷いてマグネットで留めるものが販売されているので、そういう浸水対策を強化しています。八尾は地理的には洪水の心配はないですね。

平井 大和川の氾濫の可能性はありますが、そこからは距離がありますから。

西村 東大阪も大丈夫。島根の出雲工場も海は近いのですが高台にあるので。

平井 出雲ってこれまでも地震の被害は、ほとんどないでしょ。

西村 統計を見ると大阪とそんなに変わらないです。だから「島根は地震が少ないですよ」ということを謳い文句にしているんですが、大阪だって地震被害の少なさでいえば、この間まで全国

4位だったのに突然大きいのがきたわけで。南海トラフ巨大地震が起きたら出雲でも震度5弱あると言われているので、こればかりはわからないですね。

三木 本当にそうですね。訓練はされているのですか？

西村 まだなんですよ。先ほども平井さんがおっしゃった地震の際の行動、外に出るのか、中にとどまるのかの判断も難しい

です。BCPに関しては何かあった時に顧客に迷惑をかけない、早期に復旧することを第一に考えていて、「BCPと一緒にやっていこう」と言ってくれる顧客もあります。

三木 災害ではないですが、マシニングセンタはコンピュータで制御するので、ネット関係のセキュリティは重視しています。

平井 データのバックアップはどこに取られていますか？ 今バックアップを置くサーバをどうするか悩んでいるところです。

三木 会社とは別の場所にあるサーバです。うちは金型やデザインなどデータが命なので定期的にバックアップをとっています。自動でバックアップをとってくれる安いサーバもありますよ。

西村 うちもともと2拠点なのでやらざるを得ないというか。基本的には大阪にサーバを置いてアクセスするようにしていますが、もちろん出雲にもバックアップデータは置いています。物理的にも2カ所ないと怖いので。

三木 片方にしかデータがなく、そこが火災にあったら大変ですからね。

西村 火災も想定されているのですか？

三木 最近は石油ストーブも使わないですし、気になるのは漏電くらい。古いほうの工場はブレーカーを交換することも必要かなと。

平井 設備に気を遣い出すとお金がいくらあっても足りないですね(笑)。とはいえ建屋が壊れてしまっただけは元も子もないですし。

西村 だからといってこればかりに注力するわけにもいかず、どこかで区切りをつけないといけな。それが難しいです。

三木 そうですね。計画を立てたらひとつの区切りになるのでは、とは思っています。それを第三者から認証をいただければ、安心もできますし。

レジリエンス※な取り組みとしての 「健康経営優良法人」認定。

平井 BCPに加え、事業継続にとって従業員の健康が大切だと思い、2019年、健康経営優良法人(以下、健康経営)にも認定されました。認定基準の評価項目にコミュニケーションがあり、うちではパートも含めて社内で10名以上集まって飲みに行くのであれば、会社がいくら負担する制度をつくっています。もちろん忘年会などは別で、従業員が自発的におこなう飲み会です。できるだけ他部署の人と交流してもらいたくははじめました。この制度は社員の提案で始まった制度です。一応、集合写真を管理部に提出してもらいますが(笑)。

西村 健康経営というのは、社員の健康を目指すというのですか。

平井 そうです。

三木 うちも健康経営の認定は取りました。社員とその家族もふくめて健康でないと、いい仕事はできません。従業員には心身ともに健やかであって欲しいですから。

平井 さっきの飲み会は、仕事の悩みを取り払えたらという狙いもあります。健康経営の認定を取ろうと思ったのは2018年。その年、工場2回救急車を呼んだんです。その時に従業員の健康の大切さが身にしみてわかりました。特に力を入れているのは運動と食事ですね。

西村 食事まで気を遣われているんですか！

平井 はい、オーガニック弁当を注文できるようにしています。